

侘助ツバキの来歴 Origin of 'Wabisuke' Camellia

侘助ツバキは謎に満ちた椿である。本品種は胡蝶侘助とも呼ばれ、古く18世紀の『増補地錦抄』にも記録が残る古い品種。茶花に愛され、京都・大徳寺や金閣寺も古木の残る古典的存在だが、類似した白花品種の白侘助を侘助と誤認するなど、誤解も多い。胡蝶侘助や白侘助、紅侘助、初雁など、花が小ぶりで雄しべが退化し、独特の花姿を持つ品種群を、侘助品種群（ワビスケツバキ品種群）という。近年さまざまな解析から、侘助品種群は、中国産のヤブツバキ近縁種*Camellia pitardii*と、日本のヤブツバキとの間で交雑してできた有楽（うらく、

太郎冠者、あるいは土佐椿とも）をルーツとすることが明らかになってきた。最初の交雑は16世紀に遡り、場所は宮崎県との推定もある。その後、次第に子孫が増えて今日に至るらしい。雄しべが退化しているのも、この種間交雑によるものである。

